



2026年3月期 決算説明会

株式会社クロスキャット（東証プライム 証券コード：2307）

2026年5月29日



目次

【第1部】 代表取締役社長 山根 光則

2026年3月期 決算ハイライトおよび成長戦略

… P3 ~ 10

【第2部】 取締役常務執行役員 山下 智己

2026年3月期 決算概要

… P11 ~ 20

【第1部】

2026年3月期 決算ハイライトおよび成長戦略

1. 2026年3月期 決算のハイライト

2026年3月期 業績概要

- ✓ 金融、公営競技・スポーツ振興くじ向け・データ活用基盤構築における受注が拡大し、前年同期比で増収増益
- ✓ 売上高及び各利益において5期連続して過去最高を更新
- ✓ 中計の最終年度の収益性に関連する財務目標数字を1年前倒しで達成

2027年3月期 業績見通し

- ✓ 上期は、前期に投資有価証券売却益が計上されたことの反動減により、親会社株主に帰属する中間純利益は減益となる見込みであるものの、売上高・営業利益・経常利益は増収増益を見込む
- ✓ 通期は、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益すべてで過去最高を更新し、増収増益を見込む
- ✓ 人的資本の投資を中心に積極的な成長投資は継続

株主還元

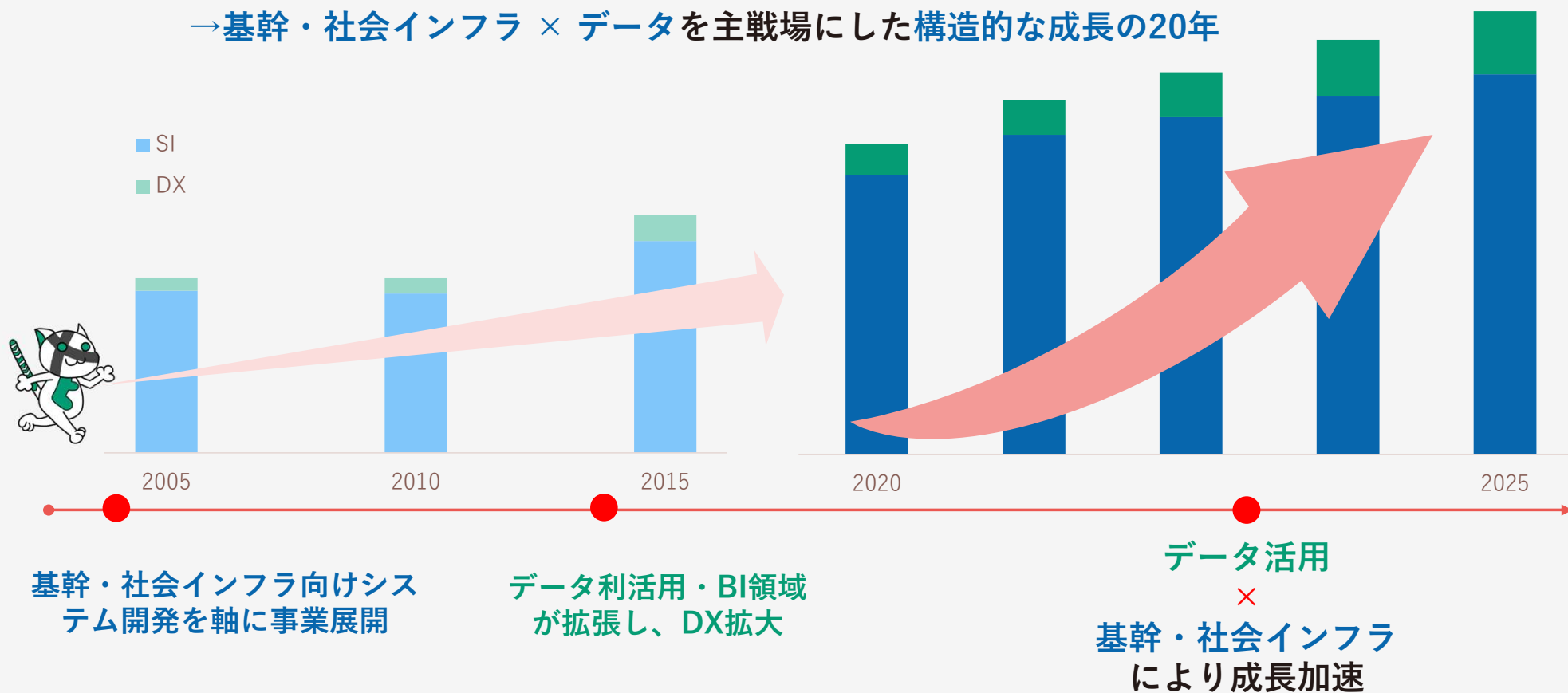
- ✓ 26/3期は業績好調に伴い、前期比4円増配の37円、配当性向34.3%
- ✓ 27/3期も事業成長を見込み、2円増配の39円、配当性向35.4%を計画

2-1. 当社が主戦場としてきた事業領域

直近、5年の売上高平均成長率は、その前の成長率の2倍に

売上高全体：6.3%、SI関連：5.9%、DX関連：9.1%

→基幹・社会インフラ × データを主戦場にした構造的な成長の20年

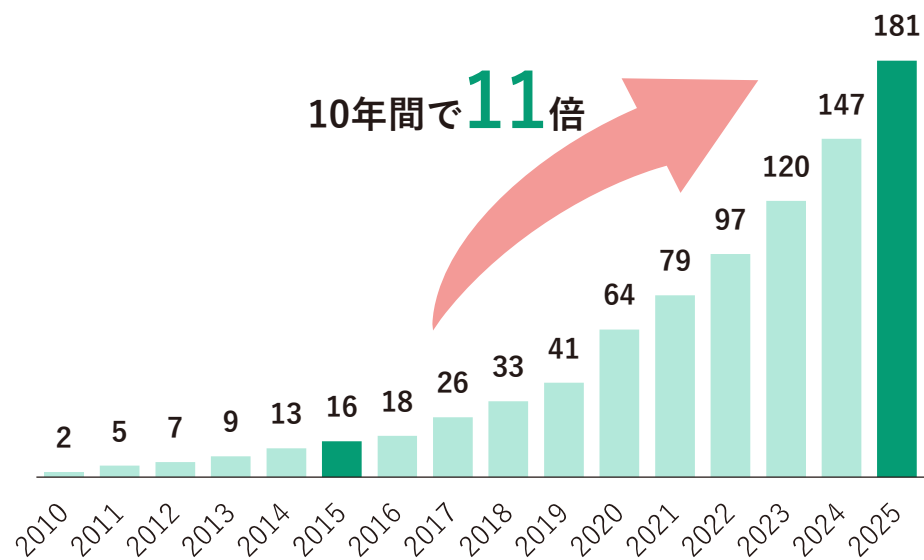


2-2. 当社を取り巻く事業環境の変化

データ量の爆発的増加と活用領域の進展によるIT投資の持続成長

世界の総データ量の拡大

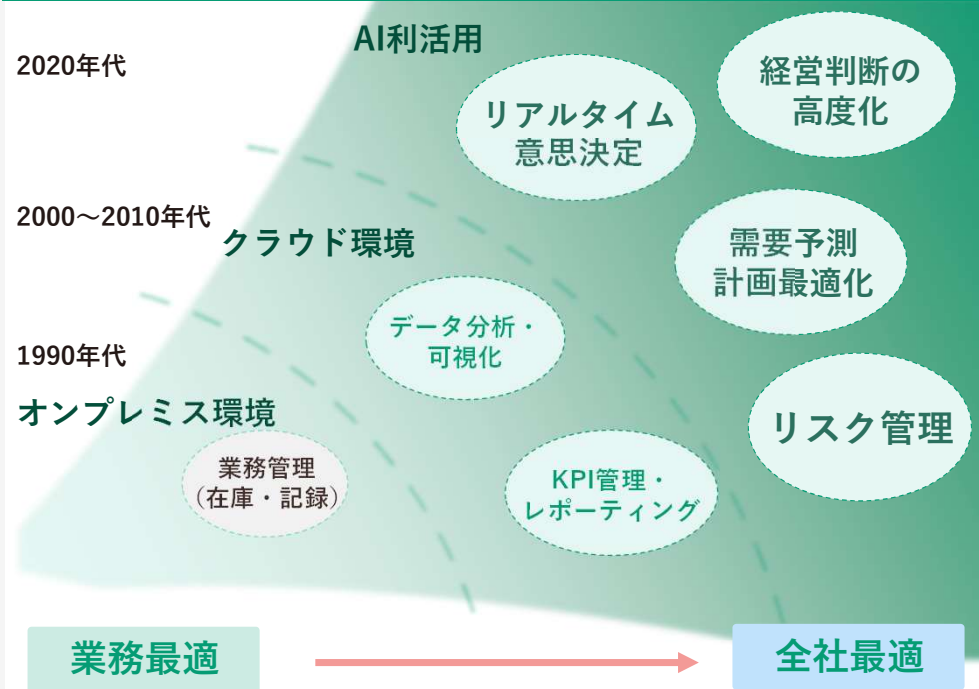
(単位：ZB)



※出典：Statista, 2025/11

※1 ZB=10¹² GB

データ活用領域の進展



当社はこの中でも**業務データの発生源（基幹・社会インフラ）**が主要領域

3-1. データを起点とした当社の事業展開について

業務ノウハウ×データ活用によって、データの真価をお客様から引き出し、ビジネスを最大化



3-2. 当社の事業展開を支える強みと体制

広範な業種に拡大するデータ利活用需要を取り込む総合力

独立系SIerとしての強み

- ✓ 金融・公共など厳しい品質基準を満たす技術力
- ✓ 中立な立場からの柔軟な提案
- ✓ 業種横断の業務ナレッジ

アミューズメント

外食

小売

不動産

医薬

医療

データ利活用需要の拡大

- ✓ AI利活用のためのデータ整備
- ✓ データの利用価値の向上
- ✓ 大規模クラウド環境構築ノウハウ

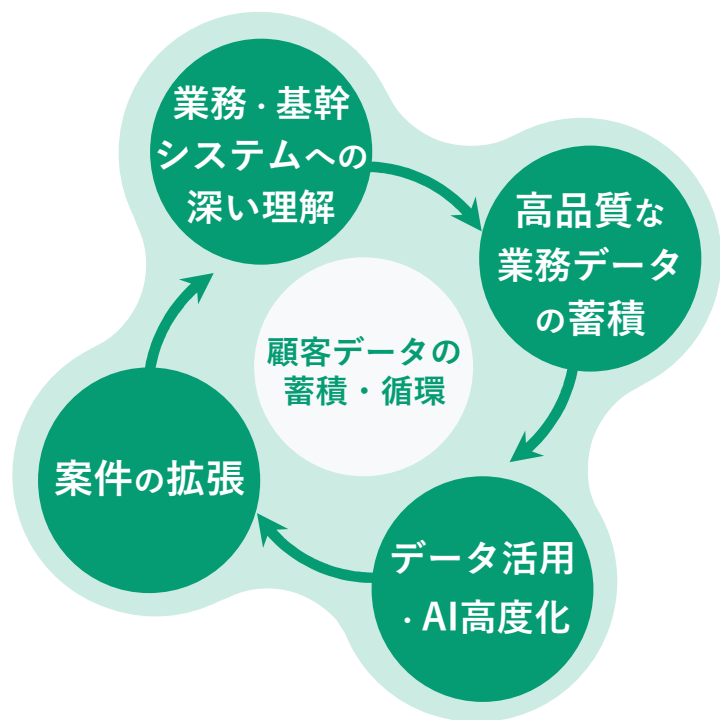
データの発生 ● → データ利活用

ワンストップで対応できる総合力で広範な需要に対応

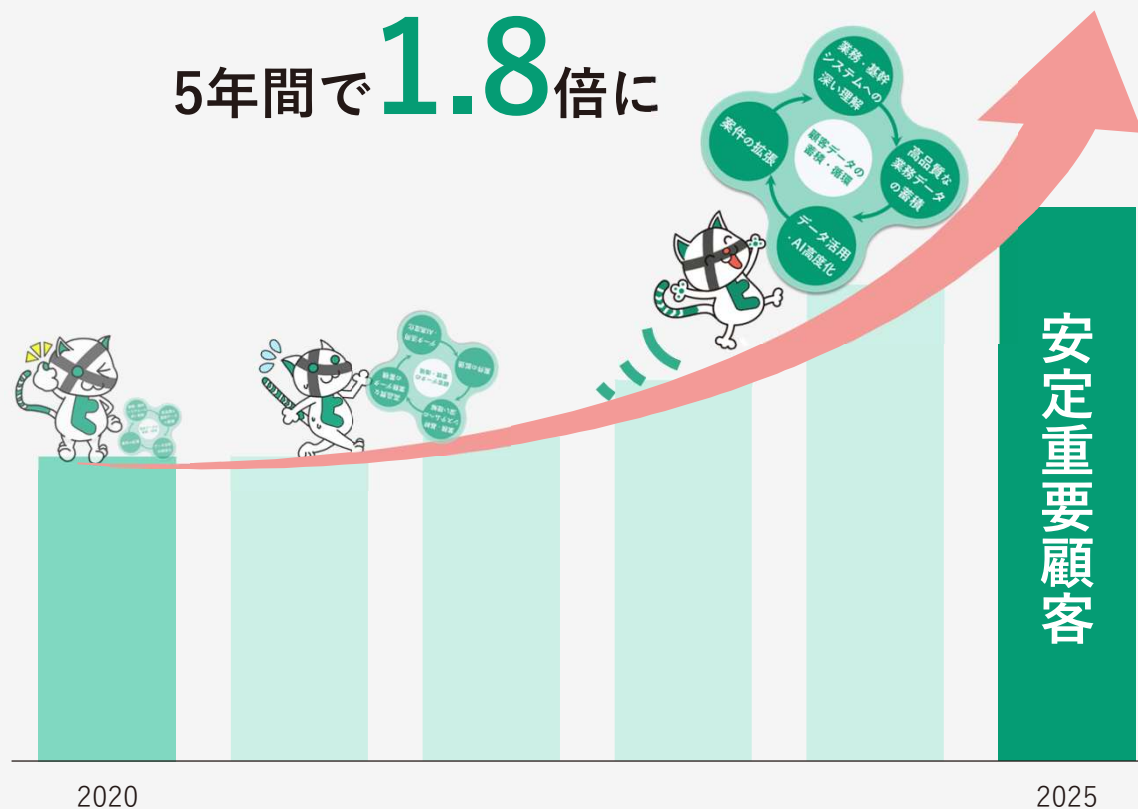
3-3. 継続的な成長を生み出す顧客との関係性

業務システムの構築からの関与が高品質なデータ活用と顧客の成長サイクルを生み出す

業務理解に根ざしたデータ循環による成長モデル



年間1億円以上の顧客数が
5年間で**1.8**倍に



3-4. 事業モデルを裏付ける具体的な取り組み事例

基幹システム開発に基づく業務ノウハウを起点に、データ整備・活用に拡張した事例

既存顧客

ライフカード株式会社様

「顧客交渉履歴システム」刷新プロジェクト支援

【OCI※を活用したクラウド移行】

システムのレスポンスタイム **1/7** に短縮

顧客対応の迅速化・業務効率の向上

新規顧客

独立行政法人家畜改良センター様

「牛個体識別台帳電算システム」刷新プロジェクト支援

【OCI 上で統合データベース・Webシステム構築】

牛個体情報の一元管理

情報連携の高速化

※ OCI : Oracle Cloud Infrastructure

【第2部】 2026年3月期 決算概要

4-1. 2026年3月期 決算の概要（連結）

- 売上高は金融、公営競技・スポーツ振興くじ向けを中心に好調に推移したことにより**期初予想を上回る結果**となった
- 利益では、人的資本への投資を積極的に実施し、費用増となったものの、増収による増益が上回り、**期初予想を上回る結果**となった
- 前期比でも増収増益となり**5期連続で過去最高の売上高及び利益を達成**

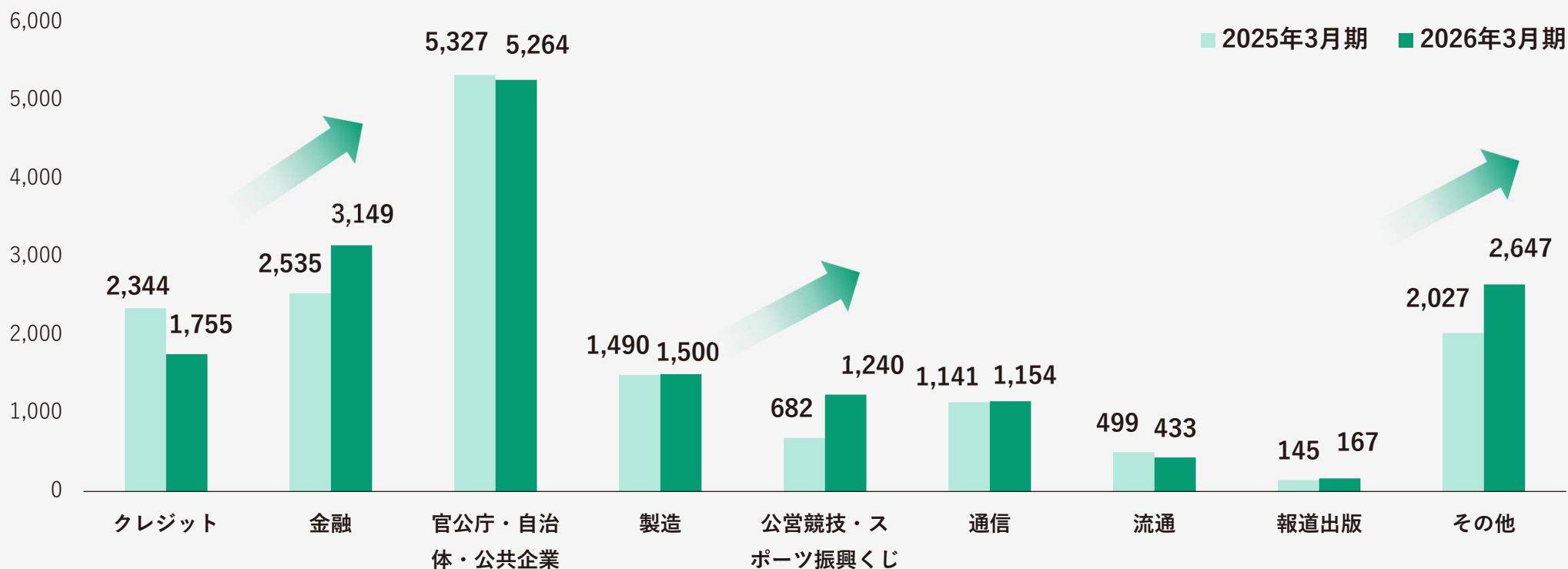
(百万円、%)

	2025年3月期		2026年3月期					
	実績		期初予想※		実績			
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	増減率 (前期比)	増減率 (予想比)
売上高	16,194	100.0	17,100	100.0	17,314	100.0	6.9	1.3
売上総利益	3,846	23.8	4,060	23.7	4,077	23.5	6.0	0.4
販管費	2,009	12.4	2,130	12.5	2,063	11.9	2.7	△3.1
営業利益	1,836	11.3	1,930	11.3	2,014	11.6	9.7	4.4
経常利益	1,898	11.7	1,990	11.6	2,043	11.8	7.6	2.7
税金等調整前当期純利益	1,872	11.6	1,990	11.6	2,120	12.2	13.2	6.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,316	8.1	1,350	7.9	1,511	8.7	14.8	11.9

4-2. 業種別売上高

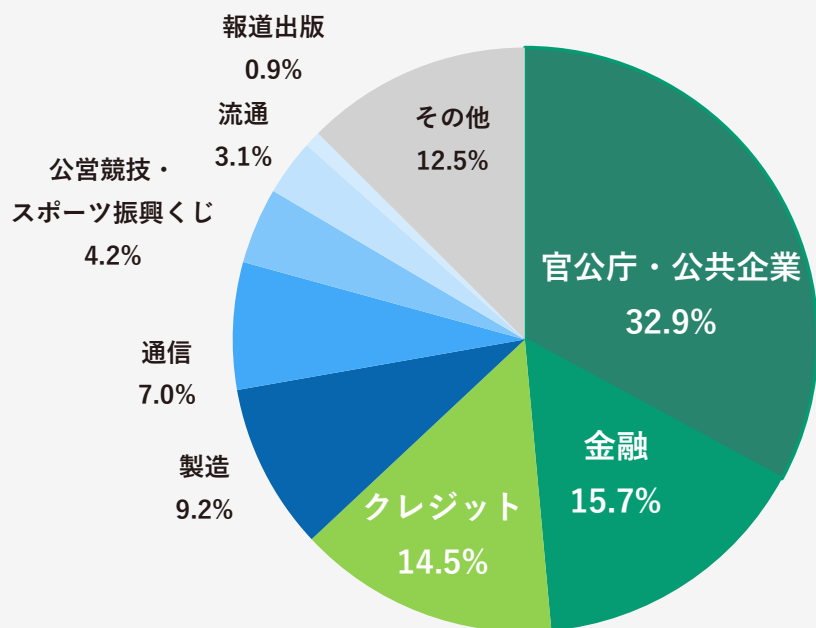
- 金融、公営競技・スポーツ振興くじ向けが好調に推移、官公庁・自治体・公共企業向けも前期並みに推移
- その他事業では不動産向けにてDX関連サービスが大きく伸長
- クレジット向けは前期に開発が集中していた反動により減少

(百万円)

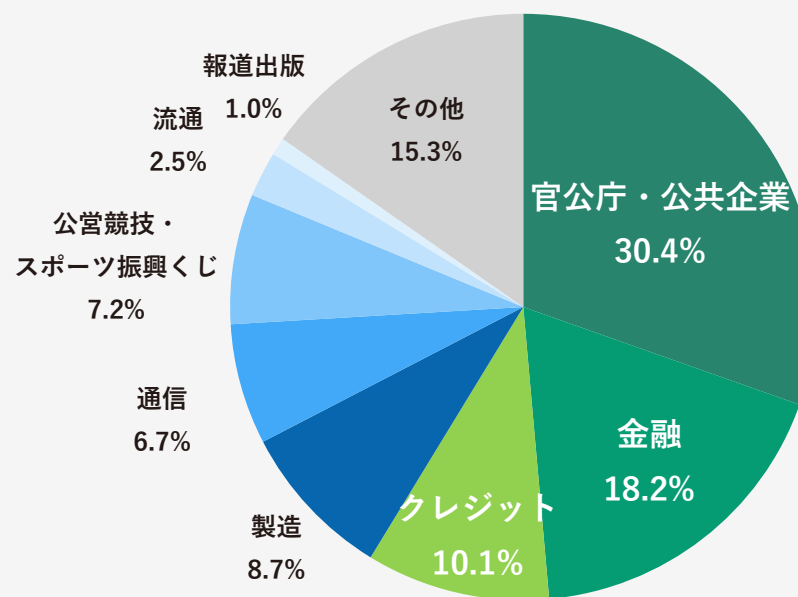


4-3. 業種別売上高 構成比

- 主要領域である金融向けにおいて銀行業務システムの保守サービス等の受注が好調に推移し、構成割合が増加
- 主要分野である金融、クレジット、官公庁・公共企業向けが引き続き約6割を占める



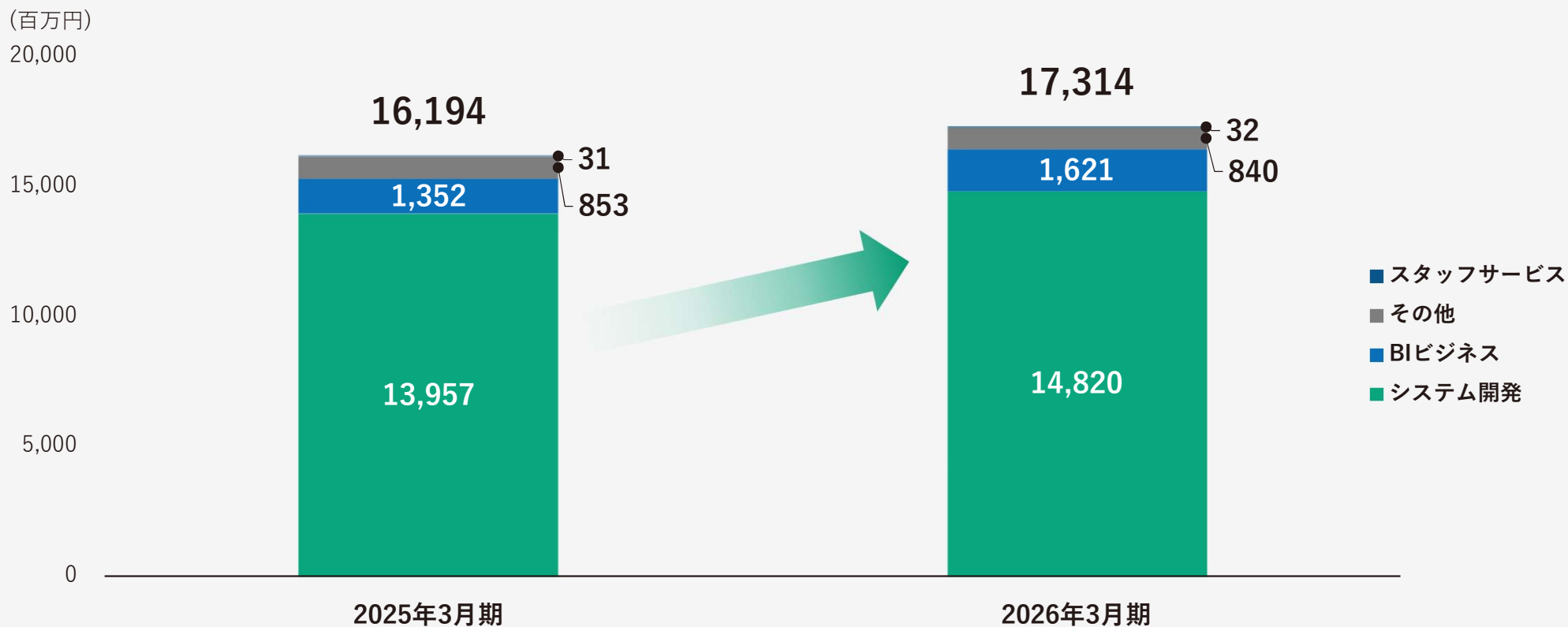
2025年3月期



2026年3月期

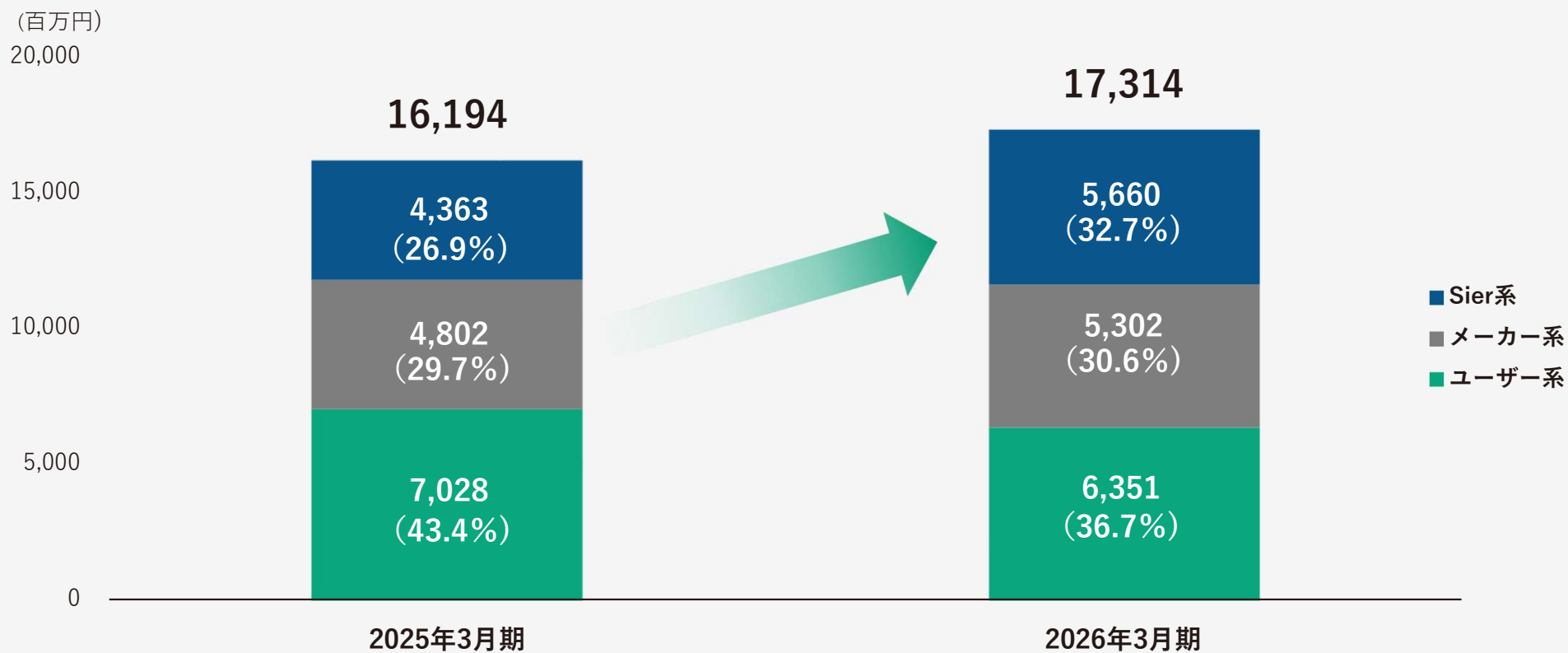
4-4. 事業別売上高

- 「コア事業」を支える金融、公営競技・スポーツ振興くじ向けシステム開発が好調に推移
- BIビジネスでは、データ活用基盤構築等の受注が大きく伸長し、成長を加速



4-5. 契約先別売上高

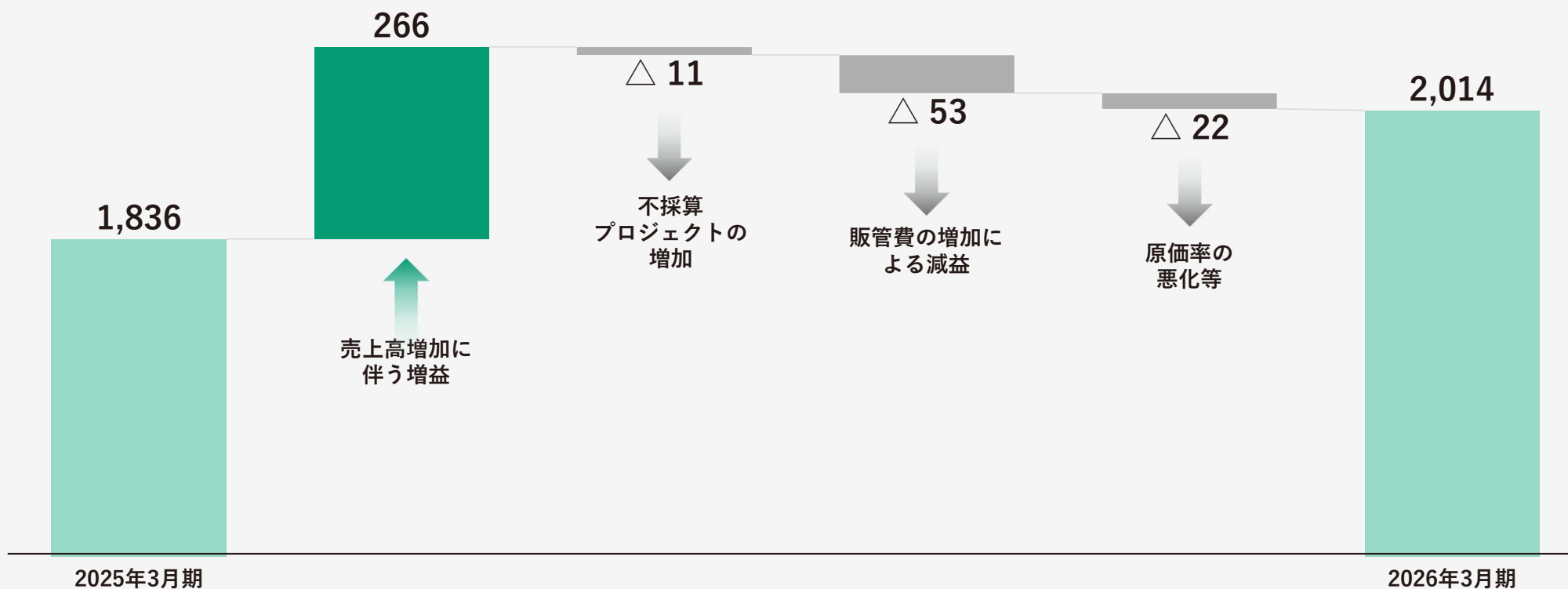
- メーカー系にて公営競技・スポーツ振興くじ向けが好調に推移
- Sier系にて金融向けが好調に推移



4-6. 営業利益の増減要因分析（対前年同期比）

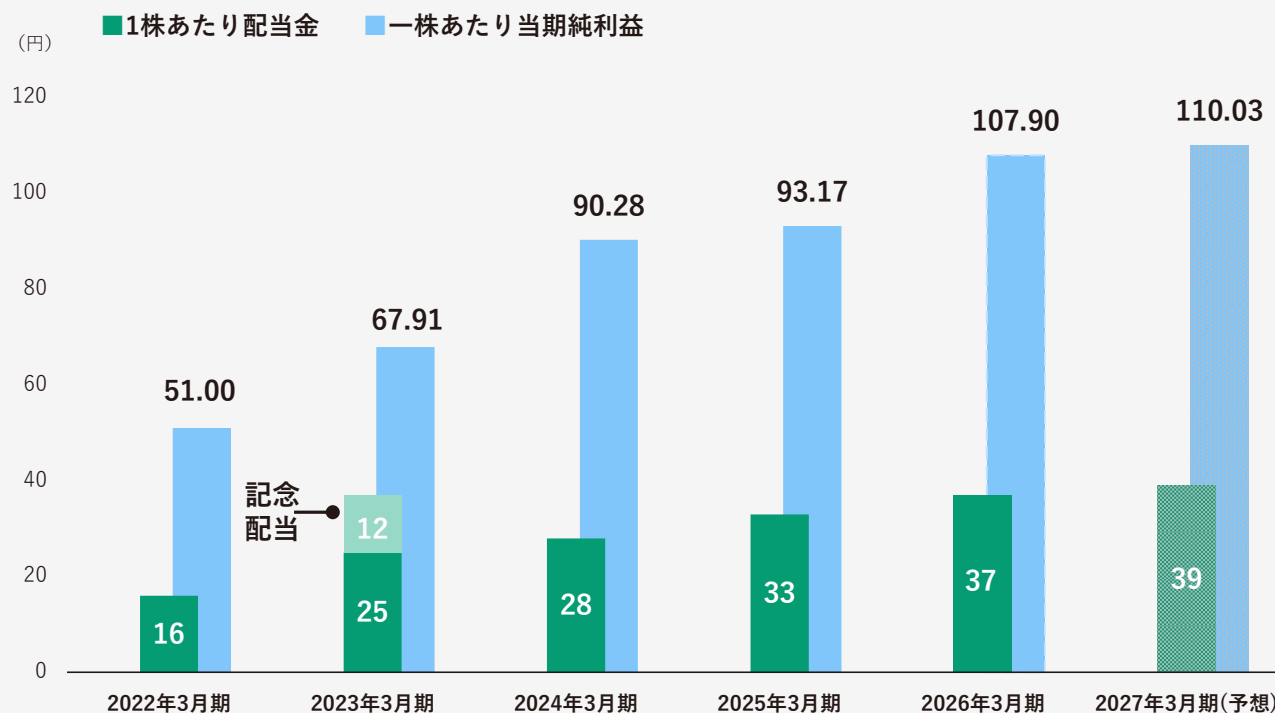
- 人材育成・確保の一環として積極的に賃上げや採用増を実施したことにより、販管費の増加および原価率の悪化となった不採算プロジェクトも一部発生した一方で、売上高の増加がこれら減益要因を上回り、前期比で増益を達成した

(百万円)



4-7. 株主還元

- 安定した企業成長と還元のバランスを取り、企業価値向上を実現する「安定配当」と「還元施策」



自己株取得	-	-	907百万円	223百万円	138百万円	-
自己株消却	-	440百万円	-	-	-	-

配当方針

安定的な配当の継続を基本とし、
配当性向35%以上
を目標とします。

株主優待

保有株式数に応じて
500円～3,000円相当の
クオカードを贈呈。
(6,000株以上保有の株主様には
オリジナルカレンダーも進呈)

4-8. 2027年3月期 業績予想（連結）

- コア事業の拡大やAI・クラウドなど先端技術を活用したサービスの拡大により、売上高は約3.4%の伸長を見込む
- 「人材・組織力の強化」の施策として継続した賃上げや新人・中途採用の強化など人的資本への投資を推進
- 通期計画では6期連続して増収増益を目指す

(百万円, %)

	2026年3月期		2027年3月期		
	実績		予想		
	金額	売上比	金額	売上比	増減率
売上高	17,314	100.0	17,900	100.0	3.4
売上総利益	4,077	23.5	4,409	24.6	8.1
販管費	2,063	11.9	2,259	12.6	9.5
営業利益	2,014	11.6	2,150	12.0	6.8
経常利益	2,043	11.8	2,190	12.2	7.2
税金等調整前当期純利益	2,120	12.2	2,190	12.2	3.3
親会社株主に帰属する当期純利益	1,511	8.7	1,540	8.6	1.9

4-9. 中期経営計画の進捗及び受注残高の状況

- 1年前倒しで、財務目標を達成。最終年度は、さらなる成長を目指す

中期経営計画「Growing Value2026」

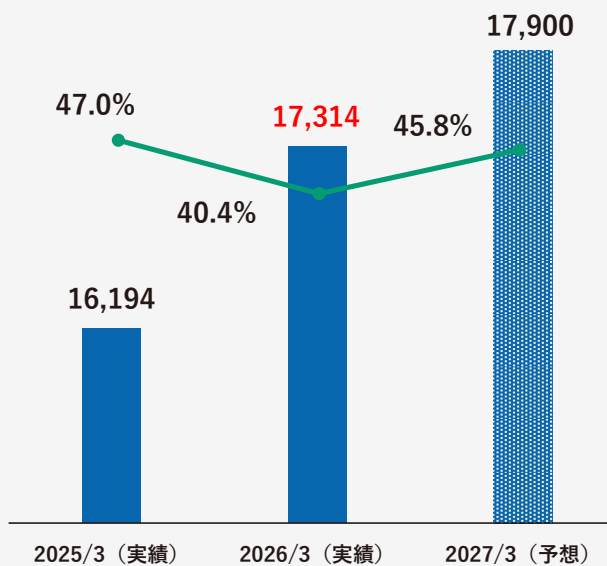
中計財務目標（2027/3期）

売上高173億円 営業利益20億円 営業利益率11.5% ROE20%以上

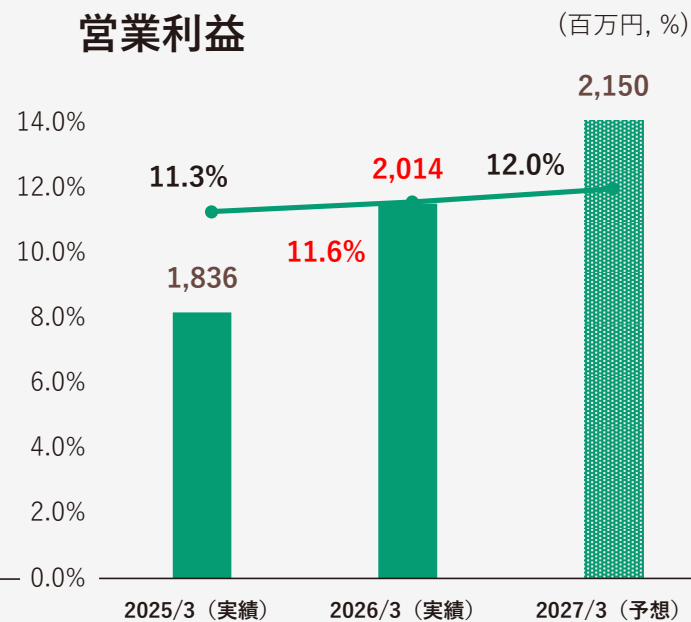
1年前倒しで達成

目標水準以上を維持

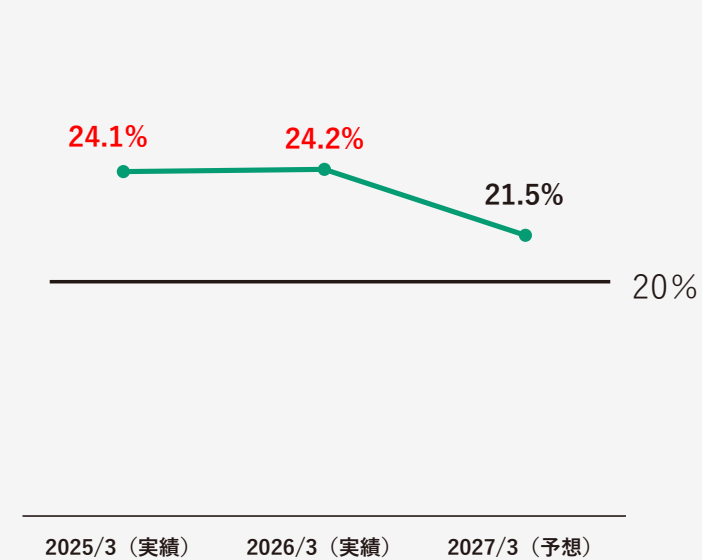
売上高・受注残比率



営業利益



ROE



* 本資料についてのご注意

本資料は、当社の業績および今後の業績見通し、経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に掲載されている将来予想に関する事項は、現時点における情報に基づき当社が判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

株式会社クロスキャット
<https://www.xcat.co.jp/>

お問い合わせ先
xcat_ir@xcat.co.jp